

COG2025 応募内容確認書

ID	8-5-1
自治体名	埼玉県本庄市
自治体提示地域課題	・まちの「ファン」である関係人口をまちの「推し」へ ・まちの当事者を増やして、持続的な発展を目指す
チーム名	本庄123
アイデア名	本庄さがねる
チーム属性	学生：学生（ ）だけで構成されたチーム
チームメンバー数	3
代表者	金井 聰哉
メンバー（公開）	金井 聰哉, 秋山 友花, 丸山 新奈

【確認事項】

- <応募のPDFファイル名と送付先>確認しました。
- <応募内容の公開>確認しました。
- <知的所有権・肖像権>確認しました。問題ありません。

本庄さがねる

本庄 123

早稲田大学社会科学部1年 秋山友花
早稲田大学本庄高等学院3年 金井聰哉
早稲田佐賀高等学校2年 丸山新奈

私たちは、埼玉県本庄市が提示する課題「まちの「ファン」である関係人口をまちの「推し」へ」「まちの当事者を増やして、持続的な発展を目指す」に対し、【本庄さがねる¹】を提案する。

① アイデア概要

私たちのアイデアの大きな軸は、「高校時代の思い出」。大学生、そして大人になったまた本庄に戻ってきたときに、「懐かしい」「エモい」という感覚になることができるような思い出の痕跡を残し、本庄の地を離れた後も、再び本庄に戻ってきやすいような仕組み。本庄に戻ってきたタイミングで、本庄市の関わり方を提案することで、持続的な関係人口となることを意図する。これを「本庄市内の施設のアルゴリズム×卒業アルバム²」のLINE公式アカウント（ゆくゆくはアプリ）で実現する。

ターゲットは、

- ①本庄市内の高校に通っている高校生
- ②埼玉県本庄市の高校に通っていた大学生

このアプリで、埼玉県本庄市の高校に通う、あるいは通っていた高校生の打ち上げや集まることがしづらいという課題から生じる、「本庄市」という土地に紐づく思い出のなさと本庄市の課題である「ファン」から「推し」というカタチを解決する。

¹ 「さがねる」とは、「探す」という意味を持つ埼玉県の方言である。

² 学生時代の思い出やエモさから連想されるものとして、「卒業アルバム」が挙げられる。実際、東京都の新橋駅近くに、全国3365校の「高校よせがきノート」がある居酒屋「有薫酒蔵」があり、それを目当てに全国各地から来店し、お酒や料理と共にたしなんでいることからも、卒業アルバムや学生時代のコメントなどは、「エモさ」を創出する。そんな卒業アルバムから着想を得た。

(全国3000校以上の「高校よせがきノート」がある居酒屋の魅力とは。酒場ライター・パリッコが探る、「有薫酒蔵」に人々が集う理由 <https://expd.com/interview/13166/> 参考)

② アイデアの詳細



(イメージ1) LINEアカウント上のAIとのやりとり（本庄123作成）



(イメージ2) 地図&思い出板の表示例

- ・チャットで人数、好み、求める雰囲気、高校の位置、距離などを指定するとアルゴリズムで、おすすめな店を提示される。また、定期的に広告で、おすすめなお店を提示する。
- ・アバウトな質問（例：落ち着いた店、食べ歩き、ポップな空間、いけすが見える）でも、お店がヒットするようにAI（ここでは、はにぽんに聞く）を組み込む。
- ・本庄市内の飲食店、カラオケ、映画館の中で、学生が打ち上げやご飯会を行える店が地図上に出てくる。
- ・店の情報として、【思い出板】（卒業アルバムやネット掲示板、インスタへの書き込みのような青春の高まった感情の中で書くコメントを投稿する）、店名、場所、営業時間、価格、メニュー、アレルギー、店内外写真、料理写真、距離、予約機能、総席数、クーポン、期間限定メニュー、おすすめ度、問い合わせ先、レビュー機能、変更可能機能（店側として、何日前までに人数を最終決定するかなど決められる）】を載せる。
※選択した日程の際に空いている座席数を表示する。（時間帯でブッキングしていない物から表示）（下のほうにはすいてない or 満席のお店表示）
- ・店の掲載に関して、ゆくゆくは本庄市民や関係人口が次々に登録できる仕組みにする。（運営の申請を通過したもの）

・【思い出板】について

- 【本庄さがねる】は思い出フィルター満載の点が大きな特徴である。
そのため、店を示すピンを、店の人との思い出（青）や、友人との思い出（赤）などでグラデーションで表示し、視覚的に思い出と結びつくエモさを創出する。
- コメントにいいねを付けられ、いいね数の上位が地図上の概要に現れる。もっと見た際は、「思い出板」を開くと全コメントや自分のコメントを検索機能もあり、みることができる。

- 匿名/不定期に更新投稿/コメントは蓄積型で年月検索で遡ること可能
- ・本庄市の食を通して、本庄市の新たな一面、好きな居場所を見つけることができる。
- ・告知の方法としては、入学進学シーズン、文化祭、体育祭、テスト期間などのイベントシーズンに、学校からメールやチラシなどを通して広告することを想定している。また、SNSなどで、ターゲットを絞り、同じ期間に広告を出す。
- ・シーズンによって、広告（シーズンやアルゴリズムからおすすめな本庄市内の施設情報）を打ち出すなどの工夫を行い、顧客を獲得する。

	イベントシーズン	シーズン外
広告（店の提案） (学校ごと、シーズンごとに切り替える)	打ち上げに適した店 (条件検索につなげる)	本庄の思い出作りに適した店（潜在ニーズ、アルゴリズムから）
規模	打ち上げなど大人数	小人数

(Table1) 広告の工夫
(秋山作成)

③ アイデアが生まれた理由

まず、実態を調査するため、本庄市内の高校に通う高校3年生と本庄の高校に通っていた大学1~4年生³に対し、アンケートを行った（Table2）。

<調査方法>

調査手法：Google フォーム
サンプル数：110（高3年66人、大1年32人、大2年9人、大3年2人、大4年1人）
高3（性別：女35、男30、その他1/居住地：本庄市外54、市内12）

大学生（性別：女30、男13、その他1/居住地：本庄市外36、市内8）

調査期間：2025/11/19-2025/12/6

調査対象：本庄市内の高校に通う高校3年生、本庄の高校に通っていた大学1~4年生

調査内容：本庄市に対する愛着度と高校卒業後の本庄市との関わり方の実態

質問：性別、学年、現居住地、本庄への愛着（10段階評価）、本庄市のおすすめ度、

おすすめした経験の有無、高校時代・今後の本庄市との関わり方

(Table2) 調査方法（秋山作成）

その結果、高校3年生の愛着度は平均5.7、おすすめ度平均4.1であり、大学生の高校時代の愛着度は平均7.3、現在の愛着度は平均6.5、おすすめ度平均5.2であった。愛着度、おすすめ度共に、数字が低い理由は「高校以外に本庄市のことを探らないから。」「アクセスが悪く、都心から2時間近くかけてまで来る魅力がない」という内容の回答であった。一方、数字の高い理由は共に、「高校時代を過ごした青春の思い出があるから。」「プロジェクトなどに参加し、まちの人や本庄のまちと関わる機会があったから。」であった。大学生においては、都内の大学に通うようになり、本庄の自然の良さに魅力を感じるようになった人も多くいた。

また、本庄市と関わりを持つきっかけとして「友人」からの誘いが高校生大学生共に圧倒的に多かった。

ヒアリングも行った。

- ・部活後に行けるお店が少なく、決まったお店やコンビニに行くことが多い。また、お店をあまり知らない。（本庄第一高等学校3年・光山龍之介・サッカー部より）

³高校卒業後社会人になった人に対しては、大学生だった場合の学年を選択していただいた。

・部活後にコンビニに行き、アイスなどを友人と食べたことが青春の思い出として強く残っている。(早稲田大学本庄高等学院3年・金井聰哉・バスケ部より)

1) 本庄市の高校に通っていた高校生の本庄市という土地に紐づいている思い出のなさ
本庄市で高校生が思い出を作りにくい理由として、

- ・学校と家との往復で、本庄市内を自らの意思で探検する機会が全くない。
- ・交通弱者である高校生に対して、十分な交通機関がなかったり、徒歩圏内で行けるお店が限られていたりするため、結局電車に乗り、他の駅に行ってしまう傾向にある。(現在は市が運営するはにぽん号のみ)

そして、本庄市との思い出のなさは、高校卒業間際になって、大きな後悔に代わっていることがヒアリングから分かった。

秋山が高校3年生のとき、学校に通う期間が 残りわずかとなった11月下旬ごろから、本庄市に全く興味のなかった同級生たちが、わざわざスクールバスに乗らずに駅まで歩いたり、学校周辺の飲食店に意欲的にいくようになっていたりする現象があった。この現象は、現在高校3年生である金井の周辺でも起きている。

2) 本庄市での打ち上げやご飯会を企画することの難しさ

- ・現大学1年生秋山の原体験

(原体験1) 高校3年生のとき、中央委員だったため、学校行事後の打ち上げの企画を行っていた。その際、クラス40人全員が楽しく盛り上がることのできる場所の確保、企画がとても難しかった経験がある。打ち上げをやらないと不仲説が出たり、本庄市には学校や駅からの徒歩圏内で手ごろな価格で大人数打ち上げができるお店がとても少なく、場所の確保が大変で、打ち上げ企画係はとても大変であった。

(どのクラスも、学校行事後に打ち上げに行きたいので、予約が重複してしまい、予約を断られることが多かった。また、全学年全クラスが本庄市内で打ち上げ会場を確保するために、様々な心理戦や早期の予約が必要になってくる。)

(原体験2) 大学生になってから、高校時代の友人と会う機会が少なく、すごく親しかったわけでもない子たちともクラス会のようなことをして会いたいが、本庄市で、どこでやればいいのかが分からない。また、特に魅力的な場所やプランがない場合、多くの大学生が集まりやすい東京都内で開催することになり、本庄市に帰る機会がなくなる。

3) 本庄市の人と関わることで生まれる本庄市への興味、愛着

アンケート結果からも、まちの人や本庄のまちと関わる機会があったことを起因として、本庄市への愛着度やおすすめ度が高くなることが分かった。

本庄市は、関われば関わるほど、魅力的で面白い要素があることに気が付き、愛着へと繋がっていくが、その入り口のハードルが以上のような理由から特に学生にとって高い。そのため、本庄で高校生時代を過ごした人たちの思い出に紐づいた本庄市の好きなところを知ることができれば、自分が知らない本庄市の一面を知ることができたり、本庄市との関わり方が見えてくるのではないか。

そのために、本庄市のまち中に青春の思い出の軌跡を残していくことが必要なではないか。

④本庄市企画財政部広報課課長高柳さんとのやり取り

本案を企画する中で、何度も高柳さんとやり取りを行った。

- ・2024/7/13 本庄市内を高柳さんと福島さん（広報課）に案内していただいた。
- ・2025/10/15 高柳さんに「ファン」と「推し」の違いについて伺った。
- ・2025/11/8 に本庄市が七高祭時や2025/7/14に開催した「新」七高祭にて行ったアンケート調査結果をご共有いただいた。
- ・2025/12/11 1時間ほどお時間を頂き、zoom上で提案をプレゼンし、本庄市との親和性への意見や本庄市の取り組みをご共有いただいた。

⑤アイデア実現までの流れ

・実現する主体

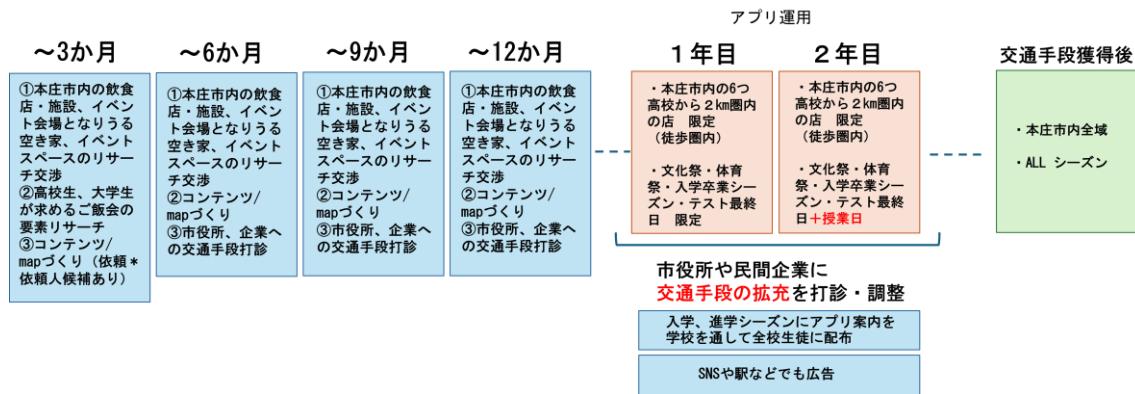
本庄市内の飲食店、イベントスペース関係者、本庄123、LINEアカウント製作者

・実現に必要な資源および、本アイデアに関わるヒトの関係 (Table3)



(Table3) 実現に必要な資源および、本アイデアに関わるヒトの関係

・実現に至るまでのプロセス (Table4)



(Table4) 実現にいたる時間軸を含むプロセス (秋山作成)

本庄市の弱点である「交通手段の少なさ」について高柳さんと検討したが、現状での市役所からの提案、導入は難しいという結論に至ったため、【本庄さがねる】を導入し、ニーズを周知させ、市役所や民間企業に新たな交通手段の導入を検討してもらうようする。

⑤今後の展望

本庄市では、マーケットが盛んに行われている。そのため、七高祭とのコラボで七高祭同日に会場付近で行われるマーケット内で、【本庄さがねる】に登録しているお店の中でなくなってしまったメニューを復活させることも視野にいれている。(高柳さんとのアイデア出しでの提案)

また、2025年から本庄市が市の魅力を発信するライターを毎年10人育成し、1年間Instagram投稿やブログ作成を行ってもらうプログラムを始めた。そして、現在、市民ライターの投稿は高い関心率、いいねが付いているそう。ゆくゆくは、市民ライターとコラボし、店を発掘しては、アプリ内で発信していくいただくことも視野に入れている⁴。ライターの書いた記事もライン上に定期的に流す。

⁴ 市民ライターについて [【受付終了】](#)

[https://www.city.honjo.lg.jp/soshiki/kikakuzaisei/hishokoho/tantoujouhou/city_promotion/20006.html】](https://www.city.honjo.lg.jp/soshiki/kikakuzaisei/hishokoho/tantoujouhou/city_promotion/20006.html) 市の魅力を発信するライターを募集します／本庄市